

うつ状態の家族介護者は、うつ状態ではない介護者の 6.9 倍も死亡・要介護状態に陥りやすい

高齢社会が到来し、介護を必要とする高齢者の人口が急速に増加しています。このことに伴い家族介護者も増加しています。本研究では家族介護者のうつと死亡・要介護状態の関係について研究を行いました。

家族介護者 87 名を 2003 年から 4 年間追跡し分析した結果、うつ状態の介護者は、うつ状態ではない者に比べて、死亡・要介護状態になる割合が 6.9 倍も高いという結果が示されました。この研究結果から、介護の精神的な負担は、心身を蝕み死に至らしめる可能性が示唆されました。

分析対象としては、AGES (Aichi Gerontological Evaluation Study、愛知老年学的評価研究) プロジェクトのデータを用いました。A 県下 3 介護保険者において、2003 年 5 月 1 日時点で、要介護認定を受け、かつ在宅介護サービスを利用していた人の介護者で、介護保険者の要介護認定データと結合できた 87 名を分析対象とし、2003 年から 4 年間の死亡、要介護(要支援以上)認定の発生を追跡しました。

研究上の倫理的な配慮として各保険者と日本福祉大学とは政策評価分析に関する総合研究協定を結んでおり、データは政策評価分析の目的のみに使用し個人情報取り扱い特記事項を遵守しています。

分析には、GDS(高齢者用うつスケール Geriatric Depression Scale-15 項目短縮版) と介護者の年齢を同時投入し、Cox 比例ハザード分析を用いて年齢調整ハザード比 (HR) を求めました。

分析した結果、GDS得点が低い者(0~4点)を基準とすると、うつ状態のもの(10~15点)では6.919倍、死亡・要介護状態に陥る割合が高い結果が示されました。

この結果は、第 57 回日本社会福祉学会全国大会(2009 年 10 月 10 日)にて報告予定です。

学会報告

平松誠 近藤克則 家族介護者の抑うつと死亡・要介護状態発生(健康寿命喪失)との関連 第 57 回 日本社会福祉学会 全国大会 法政大学現代社会福祉学部 (2009 年 10 月 10 日)

<本件に関するお問い合わせ>

名古屋医専 平松誠(ヒラマツマコト)までお願い致します。

TEL : 052-582-3000 携帯 : 090-6619-6939

住所 〒450-0002 名古屋市市中村区名駅 4-27-1

E-mail : hiramatsu_makoto_2010mail@yahoo.co.jp